

組 番号 氏名		各観点の評価に○			総合評価(1~5)		評価者
評価の基準	目標到達度	3年生					
	具体的特徴	1年生			2年生		
		高校入学時に生徒が到達していると思われるレベル	高校1年生で一般に到達してほしいレベル	高校2年生で一般に到達してほしいレベル	高校3年生で一般に到達してほしいレベル	高校生の中で極めて実力があると考えられるレベル	
観点 \ 評定	1	2	3	4	5		
研究課題の設定	研究課題の設定 研究仮説の改定 調査の計画と実施	興味のある対象を見つけたり、問いを見つけている。しかし、問いが表面的であり、何を調べるのかということが明らかでなく、研究課題になっていない。そのため、具体的な仮説や必要なデータを集める研究計画を立てられず、したがって調査が実施できない。	先行研究を意識して、対象に対する変数を見出し、より具体的な問いを設定する。不完全であるが仮説を設定し、それに合うよう研究を計画し、実施している。しかし、条件統制が不完全であったり、仮説と対応していない部分がある。	先行研究・既有知識等を踏まえて、対象に影響を与える変数を明確にし、絞り込んだ研究課題を設定する。課題に対応した仮説を設定し、それに応じて実験で明らかにすることを意識しながら個々の実験を計画し、実施している。	研究全体を通して明らかにしたいこととそこに至るために必要な個々の研究課題を明確にしている。各々に対応して仮説を設定し、個々の実験の計画と全体の実験の計画を立てて、実施している。	研究全体を通して明らかにしたいことやこれまで調査や研究で得た情報にもとづいて、これまでの調査を見直し、練りなおしたり、新たな変数を見出したり、高校生なりに独創性のある研究方法を見出したりしている。これらによって、信頼性や精度のより高いデータを収集し、厚みのある研究を進めている。	
データの解釈	データの分析 情報の評価 論証への参加	得られたデータや資料をどのように処理してよいかわからない。適切なグラフや表を整理できない。論証に参加しても、自分の意見やデータを示すのみになっている。	得られたデータや情報を何らかの表やグラフなどに変換しているが、なぜその変換にしたのか説明できない。論証では、自分の意見とデータを結びつけ、一方的であるが意見を投げかけている。	データの種類や調査の目的に応じて得られたデータ等を適切なグラフや表などによって表している。論証では、相手に対して自分の意見を示すだけでなく、質問に対して手元のデータをもとに反論している。	データの種類や調査の目的に応じて、説明においてより適切な証拠として使える形に変換している。論証では、双方向のコミュニケーションを通して学び、自分のもつ情報を論理的に整理して反論を行っている。	得られたデータや資料を多面的に眺めて、批判的に検討し、その妥当性について検証している。データ等の解釈をする中で他の研究の手続きにも情報を与えている。論証では、相手の質問を想定したり、他者の意見や見解から学び自分の意見を修正したり、多面的に論拠をもって反論を行っている。	
説明と解決策の創出	モデルの創出と活用 データ解析の手法の活用 説明や解決策の構成	問いに関係なく、モデルやデータの解析手法が不完全に使用されたり、もしくは使用されていない。構成された説明は、問に対応していなかったり、対応していても主張と証拠の結びつきや証拠そのものに誤りを含んでいる。主張が恣意的であり、信頼を得にくいものになっている。	問いに対応して、問いの状況を具体化したり、分析するためにモデルやデータの解析手法などを活用しているが、不完全な部分が見られる。得られたデータにもとづき、先行研究を意識しつつ、概ね正しい主張や証拠を含んだ説明を構成しているが、条件統制の不備などによって不完全な証拠であったり、恣意的な解釈が含まれている。	研究課題に対して、仮説を立てるために必要な変数を残すなど単純化したモデルを活用したり、データ解析の手法などを用いたりしている。得られたデータにもとづき、先行研究や既有知識等を踏まえて主張・証拠・理由付けからなる概ね論理的で客観的な説明を構成している。	研究課題に対して、より豊かな仮説を立てるためにモデルやデータの解析手法などを用いて、思考実験に活用するといった様子が見られる。研究の結果にもとづき、課題に対する一貫性のある客観的な考察を行い、論理的な説明を構成している。説明を構成する際にも、モデルや数学などを活用している。	複数の競合するモデルから研究課題の性質に応じてモデルを使い分けるなど、手続きの理解にもとづいてよりよい仮説を立てるためにモデルやデータの解析手法などを活用する様子が見られる。課題に対して、多面的な考察を行い、説明の論理構造に矛盾がないが検討を行っている。また、先行研究と比較したり、想定されうる反証についても検討を行ったりしている。	